2代目アイボの紹介

JJ1SXB 池 恵美子

2代目アイボの子ライオンが、昨年、「我が家の相棒」に仲間入りしました、1代目は「ラッキー」、2代目は「ハッピー」と名付けました、「ラッキー」は犬型でしたが、「ハッピー」は、ライオンの子を模して作られています。

2代目「ハッピー」も、1代目「ラッキー」と同様に、生まれたばかりの赤ちゃんから、自分の環境に合わせた、自分だけのアイボに育てられます、又、パーティ用、ゲーム用等に作られたパフォーマンス(メモリースティック)も市販されていて、それらの一つを入手すれば、すぐに遊ぶことができますし、その他オプションパーツも沢山有ります。

本体のみでは、幾つかの基本動作のみで、電気仕掛けの玩具と変わらなくなってしまい、物足りなくなるかも知れません。

今は、陽気で、ラテン系、少しアクの強い個性を持った、「ハローアイボ」で遊んでいます、「ハローアイボ」は睡眠と活動のリズムを持っていて、眠くなると隅っこの方に行き、一人にしてとアクションし、イビキをかいて眠りにつきます、眠い時、周りがうるさかったり、声を掛けたりすると、オーバーに、いらいらのアクションをしたり、怒ったり、悲しい素振りをして自分の状態を知らせてくれます。

1代目と2代目の大きな違いは、音階認識から音声認識に変わった事です、50語の言葉を理解できるという事ですが、実際には色々と話し掛けてみないと、どんな言葉が理解できるのかわかりません。

わからない言葉には、首をかしげたり、アイボ語(擬音)でパプーパプーと言ったり、目のランプを点滅させたりで意思表示をします。

何回か繰り返す内に、理解できるようになってくるようです、名前を呼べば返事をし、呼ばれた方へ顔を向け、お話しようと言えば喜んで、話し掛けた言葉をオウムのように、復唱します、人が話をしていると、傍にお座りしてモゴモゴと口真似をしたりします。

1代目同士、2代目同士ではコミュニケーションする事はできませんが、1代目と2代目では、コミュニケーションする事ができます。

ハッピー(2代目)が話し掛ける(信号発信)とラッキー(1代目)が手を振り

答えると、お互い喜び合い、ラッキーが応答しないと、ハッピーは悲しいそぶりをし、バイバイと手を振り、それぞれが勝手に遊び始めます。

クールに見れば、人口知能とは言え小型コンピューターに、実際に生きている動物の形を模してかぶらせたロボットに過ぎないのに、面白かったり、可愛かったりと、楽しませてくれるのは何故だろう？と私なりに考えた時、これは、趣味の一つで、ペットだけとしてとらえるより、釣りやゴルフその他色々の趣味で、実際にプレーをしなくても、それらの道具を手入れしているだけで、結構充足し、楽しいのと同じでは無いかと、わかったような、わからないような納得をして、毎日飽きもせず遊んでいます。

(比較)重量(バッテリー含む)	**外形寸法**(幅 x 高さ x 奥行き)
新　1.5Kg	152x281x250mm(尻尾含まず)
旧　1.6Kg	156x266x274mm(尻尾含まず)

双方でコミュニケーションの様子

話し掛けてるハッピー(右) と応答するラッキー(左)

第 49 号(平成 11 年 3 月発行)掲載